

夢、私たちに。 わたしのひとこと



未来を信じ

新田 中村 豊

暗い問題をたくさん抱えた社会情勢、少子化問題、働かない青年層、不登校生徒の増加、犯罪の低年齢化等々、この先どうなるか見当もつかない。“まったく今の若い者は……”と言われてしまいそう。しかし、このことは今に限ったことではない。ある考古学者が古代エジプトの発掘調査中に象形文字を発見し、解説したところ「最近の若い者は……」という年寄りの愚痴が書かれていたそうである。また、日本でも平安時代の文章にやはり「最近の若い者は」と書かれたものがあるそうだ。そして、活動的な高度成長期の昭和40年代も、鶴田浩二のヒット曲『傷だらけの人生』の歌詞に「今の世の中、右も左も真暗闇じゃござんせんか。」とある。つまり、いつの時代も先の見通しはなく、若者は信頼がないと言うことに尽きるだろう。こう考えると、今の情勢に対して不平不満を言うよりも前向きに考えて、未来を信じ、夢と希望を持って精一杯生き抜くことが大事だと思う。



白馬の観光は食育

飯田 下川 千春

今年のように降雪が少ないと、雪に覆われた冬が懐かしい気がします。この不況で、白馬の観光資源である雪の製造も縮小されてしまったかしら。観光だけではなく、農業にも影響があるかと心配する声も聞きました。

ここ数年、食品に関する事故（偽装なども）が多く報道され、食について関心が高まっています。口にする食べ物が「安心安全」なのは、当り前の事なのに、わざわざ言わないといけないのはおかしいと思うのですが…。

観光には食べ物がつきものですね。何処かへ出掛けると、何かしら食べてきますよね。ここでは、おいしい空気と水で育った、お米や野菜を、観光で訪れた人達が食べて喜んでくれるので、嬉しいです。「食べる」ということは、心も体もあたたかくする事だそうです。美味しい物を食べると笑顔になって、元気が出ます。白馬の観光には、元気が必要だと思います。



やっぱり白馬はスキーの村

八方口 丸山 勝

今年になって嬉しいニュースが次々と飛び込んで来ています。それは、白馬高校スキー部のインターハイでのリレー競技優勝から始まり、当村出身の渡部暁斗選手が世界選手権ノルディック複合団体に優勝し、その後のフリースタイルの世界選手権では、上村愛子選手が2種目で優勝、白馬村スキークラブの西伸幸選手が準優勝を飾りました。また、全日本スキー技術選手権では、松沢聖佳選手が8連覇をしております。これらの選手達の大活躍に、私を含めた村民は、このような大不況の中で、明るい希望を見つけたように思ったに違いありません。そして、この白馬村がスキーの村であったことを誇りに思い、改めてスキーを活性化の原点として考え直すことが大事だと私は思っています。スキー界に身を置くものの一人として、少しでもこの思いを具現化する努力を続けたいと考えています。

編集後記

住民と議会を繋ぐ大事な役割を担っているのが議会報です。「見てもらえる・読んでもらえる議会報」となるよう、「住民の目線」を何よりも重視して編集に努めてきました。その成果もあってか、議会報が少しずつ巷で話題に上るようになってきたことは大きな励みとなりました。次回6月、新しい議会での発行をお楽しみに！

渡辺俊夫記



議会報調査編集

特別委員会

議長 西澤 功
委員長 柏原 孝至
副委員長 渡辺 俊夫
委員 池田 和良
委員 小林 英雄
委員 太谷 正治
委員 宮尾 幸典
委員 高橋 賢一